元氣パワー農法

GP 農法生産者だより

農民連埼葛支部・GP 農法研究会

No.1 (14年1月28日)

事務局 090-6933-1755

春日部市藤塚402-18 (タカハシ)

今後の「GP 農法」の普及を目指して、初の「GP 農法体験者交流会」を開催

「GP 農法」が東南アジアを中心に世界的に認知され広がる可能性ができました。日本の商社が完全無農薬の農産物を買求めることが予想されてきます。

生協流通新聞が GP 農法を報道

また国内では、2013年10月5～6日日比谷公園で開催された「グローバルフェスタ」、同11月27日に開催された農民連主催「ふるさとネット見本市」に「GP 農法」を「試食付」で紹介し注目されました。そこで100ブース見本市の中で「生協流通新聞」が一面写真入りで「GP 農法」を紹介しました。異例のことです。会員2500万人を擁する生協が取り上げたことは、改めて「完全無農薬栽培」の農産物に大きな関心があることを知らされました。

「GP 農法」によるわれわれ生産者は、こうした情勢にどう対処するのか今から対応を考えることが交流会の目的です。次回から生産者会議に切り替えます。

1、体験者から

○大宮・染谷農産物直売所責任者・県農民連副会長浅子さん

キュウリ、トマト、サツマなど直売所出荷・・・「お客さんから味が良い、長持ちするなどの声をいただき GP 農法に確信が持てるようになった」

○春日部・倉持さん

キュウリはウイルス病にやられたが、「道の駅」でレタスなど葉物が評判。高めの値段だがよく売れている。

○春日部・藤枝さん

これまで EM 農法など体験したが、GP 農法に切り替えた。今年は本格的に GP 圃場作りをしている。大豆畑トラストを GP 農法でやるためにセラミックの埋設が終わり、GP ボカシ作りもやる。雑草エキスはすでに経験しているので今年は本格的に GP 農法に取り組みたい。

2、GP 農法指導者・田嶋先生より

テーマ：なぜ、化学肥料を使用してはいけないか・・・

化学肥料の特徴はエネルギーが高く速効性はあるが、土や農産物にマイナスエネルギーが蓄積し、土が硬くなったり野菜が美味しくありません。

GP 農法資材の雑草エキスは、化学肥料と同じく高いエネルギーを持ち速効性があるが、大きく違う点は、マイナスではなくプラスのエネルギーということです。その違いによって GP 農法では、土がフカフカになります。

GP セラミック・GP ボカシは効き目がゆっくりの遅効性ですが、微生物を活性化し増殖します。増殖した微生物自体にパワーが上がって、これが、植物の成長に必要な酵素になっていきます。したがって農産物が病害虫に侵されにくく元気に成長します。つまりプラスのエネルギーが土壌と野菜に蓄積し、団粒構造土壌、そして抗酸化性の高い野菜ができるのです。GP 農法が有機農法と決定的に違うのは「抗酸化性の高さ」の違いです。他の農法では「抗酸化性の高い」農産物は生産できません。まさに世界的イノベーションであることに自信を持てる農法です。

3、都内で販売している一流と言われている野菜の試食…岡崎さん提供

味は悪くはないが、ミネラル分を多く含む抗酸化性高い野菜ではないことが判明(パワーがない)

※次回 第2回生産者会議(3月10日13:30~)

GP セミナー終了後に行います。

これから GP 農法を体験したい方をお誘いください。